

日時 平成 28 年 7 月 28 日（木） 午後 3 時～午後 5 時

場所 鎌倉市役所 第四分庁舎二階 823 会議室

議事

1. 確認事項

【事務局】本日の資料の確認だが、①会議次第、②委員名簿、③第 24 回検討委員会専門部会資料（A 3 版）、④鎌倉地域の地区交通計画策定に向けた中間とりまとめ（閲覧用）、⑤鎌倉地域地区交通計画等のこれまでの検討経緯（参考資料）を配付した。

続いて本日の情報公開・議事録の確認だが、前回同様、今回配付した資料は情報公開の対象としたい。本日の会議の議事録についても原則公開となるので、作成次第、委員の皆さんに確認の上公開するが、発言者の氏名は非公開とする。

【久保田部会長】事務局から議事録の情報公開について確認があったが、よろしいか。

【委員一同】異議なし。

2. 議題

(1) 平成 28 年度の進め方（案）について

(2) 平成 28 年度検討委員会・専門部会の検討方針について

【久保田部会長】議題（1）と（2）について事務局に説明して頂いた。特に今日初めてご参加頂いた方も多くいるので、これまでの経緯についてどんなことでも結構なので、感じたことを言って頂ければと思う。

【廣瀬委員】20 の施策だが、平成 7 年に計画したものを再評価して引き続き進めるということだと思うが、新しい委員の方もいるので違うかたちもあるべきだと思う。

それと、資料に記載されているが全部協議・調整であり、それは行政で行えば良いことで、これだけの人を集めて行う話ではない。

また、今話題になっている（仮称）鎌倉ロードプライシングについて、これまでの資料も読ませて頂いたが、実施に際して財源や土地があるのかという部分や、法制度的にできるかは行政の問題である。鎌倉は政令都市でなく一般市なので、県と相談しながら総務省に協議

していると思うが、一度しか行ったことがないはずである。それについても、少し行政で汗をかいて頂かないと、（仮称）鎌倉ロードプライシングについての議論は前提を欠いていると思う。

【久保田部会長】三つ、大変本質的な意見を冒頭から頂いた。まず、「20 の施策というのは平成7年のもので、それを続けるのはおかしいのではないか」ということである。

二つ目は「いろんな施策は行政でどんどんやれば良いのではないか」ということである。

三つ目は「（仮称）鎌倉ロードプライシングについて、もう少し取組みが迅速であるべきでないか」ということである。

【廣瀬委員】三つ目はきちんとお話しする。（仮称）鎌倉ロードプライシングを実施する際に、土地、基金も必要になるし、運用経費があって、構想段階なら構想段階なりにおよそ「この位の土地が必要で、この位の経費が掛かる」というものは必ずあるはずなので、これは行政で基盤を用意できるのかという問題である。そこをまず理解しているのかと、法制度的にこれまでの経過の中で担当が「法定外目的税でできる」と言い切っているが、それは総務省と協議して同意がないとできない。そして、その同意を求めに行ったのは事前相談程度のものが一回あるだけである。皆さんを集めて何度も議論している訳だから、その中でヒントをもらって何回も県や総務省に相談して、議論がフィードバックされなければいけない。その部分について行政にも汗をかいて頂きたい。

【事務局】20 の施策については市民の皆さんに集まって頂いて、改めて見直そうということで今までやってきた経緯がある。「行政ももっと汗をかくべきではないか」ということは確かにそうで、委員の皆さんに方向性を直々に出して頂いているものは行政で積極的に課題を解決していくべきものだと認識している。

三点目の（仮称）鎌倉ロードプライシングの財源や土地について、構想段階できちんと整理するべきではということだが、構想の中では ETC システムを開発しているメーカーと協議をして、概算ではあるが大体の費用は行政として把握している。土地についても同様に、取得し易さや機器の設置し易さという点から候補地を検討している。総務省だが、まだ制度自体が固めきれない部分もあるので、相談ということで昨年9月に行ったところである。指摘の通り課題があって、例えば「カメラ課金や ETC の課金について100パーセント徴収できるのか」という質問や、「市民とそれ以外に流入してくる方との課金額のバランスを検討する余地がある」という意見を頂いていて、これについても専門部会である程度の素案をまとめて頂き、それを再度、特別委員会と幹事会という組織で国の方を交えて協議させて頂いている。その状況を逐一専門部会に報告させて頂いて、具体的な案を出していきたいと考えている。

【廣瀬委員】今、「特別委員会で国の方を交えて」と話されたが、特別委員会では総務省の方

も「市民の意向によってというニュアンスのことをおっしゃっている」という発言があったが、市民が要望したからといって総務省が同意することはないのではないかと。特別な税源を認めるということなので、そこは少し違うと思う。特別委員会は検討委員会で設けただけであって、私が「汗をかいて欲しい」というのは、そういうところで議論したものを踏まえて、県とも相談して、総務省に正式協議をして欲しい、ということである。それによって無理であれば断念して頂き、違う方法で検討する方向で汗をかいてもらいたい。

【久保田部会長】 他は如何か。

【宮田委員】 質問と意見が混ざってしまうかもしれないが、今、行政ということをおっしゃったが、全体的に長いスパンがあって、20の施策の見直しは、行政の計画あるいは関係省との折衝をどのくらいのスピードで反映できるのか、というのは市民感覚として一番の課題だと思う。個別の話あまりする気はないが、例えばパークアンドライドのシャトルバスは、誰も乗っていないので、何をやっているのかとを感じる。その感覚とこの資料は合っているかどうか。行政も自由な意見を言っているのに、市民のリアリティと困っている課題が解決しない。そのスピードの遅さの理由が一番気になる。「このような理由がある」、「それはここが障害だ」、「このような訳だ」と分かる場合は教えて欲しいというのが一つである。そしてこれは質問でなく意見で、20の施策もそうだが、(仮称)鎌倉ロードプライシングのために法整備をやって、これからの検討内容も状況はどんどん変わっている。「課題はここにある」ということで、課題に対する施策案はいくつか社会実験で行っているが、結果どうなっているのかという、最新の課題がどう数字で可視化されるのかという視点が全くない。それはどうして思いつかないのかというのが疑問である。一例をいうとトヨタでも震災後、車の流量みたいなものを出している。CMでも「これでトラック業界が助かっている」ということを実施している位なので、「鎌倉市が頼んでいる」と言えば、何でもデータが出るのではないかと。課題が可視化され「曜日によってこんなに混雑が違う。3年前と今では混むところが変わってきた」と分かる。例えば具体的に言うと、「大仏様のところの大型駐車場が閉じてしまうとここがこんなに渋滞してしまう」などである。課題がどうなっているのかが分かって進めているのか若干気になっている。いずれにせよ、課題について皆が見て分かるレベルの素材があってしかるべきだと思う。そのように可視化された議論をしないと、正直言うと一年やっても何も進まない。それでは残念だという気持ちが強くあるので、その辺りの可能性や、検討したいけどこのような理由で検討が止まっている、というものがあれば教えて欲しい。

【久保田部会長】 大きく分けて二つあった。一つは「何故こんなに時間が掛かっているのか」である。それぞれの施策がどこまで進んでいて、例えばシャトルバスに乗っていないというのはどう意識した上で議論しているのかということである。データの話なのでそこは補足説

明を頂いた方が良いと思う。

【福澤委員】 その前に少し意見がある。資料 3 ページの黄色いところに検討の議論項目として、二重丸と丸があって、二重丸があるのは今年度に新規議論ということで両方やれば良いと思うが、（仮称）鎌倉ロードプライシングがやはり一番の難関である。逆に総合的な交通情報等は、協議で調整するというところもあるが、共通の計画の中でやってくれば良いという部分もある。ここでは結果が大事だと考えている。（仮称）鎌倉ロードプライシングを一応入れておくのは悪くないと思うが、市長が言い出してからずっと「難しそうだな」と思っている。多分その他の丸のないところについては既に色々まとめてあり、ある程度それに沿って行っていると思う。

【事務局】 20 の施策の中で、行政でやるべきところはできると思う。パークアンドライドやバスを見るとあまり乗っていないという指摘については、改善方法は確かにあると思う。そこは改めて、今できることを速やかに対応していきたいと考えている。ただ、パークアンドライドの駐車場は用地交渉や予算があるので、長期的な検討になってしまう部分もあることは認識して頂きたい。

交通状況は日々変化しているので、最新状況を把握することは非常に大事だと考えている。交通渋滞情報や交通量調査で最新の情報を得て、他との比較等にも使っていきたいと思う。また、カーナビ等のプローブ情報も手に入りやすい状態になっているので、逐一取り入れてやっていきたい。これまでは、渋滞情報についてはカーナビ・プローブデータを基に解析を行っており、交通量調査に関しては、市内 6 カ所について毎年定点で経過を見ているので、情報については最新のものを手に入れて皆さんに提供することを考えていきたいと思っている。

【久保田部会長】 少し補足させて頂くと、プローブデータの話があったが、約 2 年前に 365 日の鎌倉地域の交通状況についてデータが入手できて、「それに基づいてどういう施策がいるか」という議論をした経緯がある。その時の資料をお渡しして頂いて同じデータを見て議論するようにしたいと思う。

それから検討期間が長いことについては私も非常に感じている。私は当初からの委員でもう 20 年間議論に携わっているが、当時議論をして、実証を何回もやって実現したのがパークアンドレールライドとパークアンドバスライドと鎌倉フリー環境手形である。特に、パークアンドバスライドはそもそも郊外の駐車場でしっかりしたところがまだない。あるいは乗り換えても片側一車線の道路しかないので、渋滞の中をバスが走るようになって乗り換える意味が感じられないような状況である。パークアンドレールライドはできるが夏期は駐車場が使えない等、それぞれ限界がある。この委員会が始まって最初の頃は「そのような施策が実現できて 10 年近く経ったが、その後どうだろうか」ということで議論が再開したが、「確かに問題は全然解決していない。パークアンドライドの駐車場のオーダーが全然違う。

しかし 1,000 台規模の駐車場がすぐに郊外に作れるかということ、とてもそんな予算はない」というところから議論を始めて、同じ認識で市長が「やはり総量を規制するしかないのではないか」となった経緯がある。

【人見委員】 まず一つは、特別委員会が専門部会に投げ掛けている宿題は、資料の中に具体的に記載して頂きたい。

二つ目に、逆に我々専門部会から特別委員会に「この答えが欲しい」というのを具体的に提示しているなら、その内容を記載して頂きたい。

それから、三つ目は資料 3 ページの歩行者尊重道路について、「歩行者尊重道路に位置づけられている路線に加えて」とあるが、これは何を見ればこの路線が分かるのか。最後は実際に出てくる請願書について、どんな請願書が出ているのか見せて頂けるとありがたい。

【事務局】 まず、専門部会が特別委員会に投げ掛けていることは、手元にある「中間とりまとめ」の 46 ページに記載がある。特に法的な課題、補助制度の活用、基本システム、社会実験についてである。これまでの専門部会の一定のとりまとめはこの中間報告に書かれており、それをベースに特別委員会に投げ掛けている。専門部会で検討すべきことについては、特別委員会の状況をフィードバックして、市内でのピンポイントの整備等で整理することも考えられる。現在は特別委員会の議論にボールを投げている状況である。

請願の内容については、先の 6 月議会で、「子供達と高齢者の歩行空間の安全を守る為、生活道路におけるあらゆる対策を講じるよう、鎌倉市に対して、働きかけることを求める請願書」が提出された。具体的な場所を挙げているのだが、生活道路に観光客の車が流入してきて危ないなどの趣旨で、三名の議員が同意し、請願が出されている。流入交通による交通事故が多発していることと、東京オリンピック・パラリンピックの関係によって更に交通量が増加するだろうということで、高齢者や子供達等、生活者の安全を守っていかうということである。「あらゆる手段」ということで、例えば、交通規制（一方通行、曜日時間帯別、住民以外通行禁止等）や、カラー舗装、速度制御の掲示等、そういったものも含めた啓発活動を具体例としている。問題の場所として、特に 6 カ所挙げられており、今小路通り、長谷の大仏に向かう道、極楽寺周辺、佐助一丁目の信号の旧法務局の前から中学校の前までの抜け道、江ノ電鎌倉高校前から腰越小までの道、鎌倉郵便局の横、とされている。この 6 カ所を具体的に挙げて、「他の道もそうだが、生活道路に対してあらゆる策を講じてくれ」という内容である。

【小泉委員】 その請願は採択されたのか。

【事務局】 全会一致で採択された。請願した議員は別の委員会所属だったが、総務常任委員会で市民安全課等が出席し、そちらの委員会で採択された。

【久保田部会長】 他は如何か。これまでの検討内容と今年度の検討内容に関しては、このよう

な内容で良いか。非常に重要な意見を頂いたのを共有して進めていきたい。次にアンケート調査について事務局から説明をお願いします。

(3) 実態調査・アンケート調査について

【久保田部会長】 それでは説明内容について、意見ををお願いしたい。

【廣瀬委員】 渋滞情報に関する記述がないが、「9月18日のある時間にこの方向で何メートルの渋滞があった」という、基本的な調査はどこでやるのか。

【事務局】 渋滞調査に関してはこちらの中間とりまとめの10ページ、日本交通情報センターからのデータを提示している。このデータを見ると例えば何時にどこで渋滞が発生していたかをこの図の通り読み取ることができるので、渋滞に関してはこちらのVICSデータを使い、実態調査は行わないことを考えている。

【廣瀬委員】 データをもらおうと実際に調査したのと同じ効果が得られるということか。

【事務局】 その通りである。

【福澤委員】 VICSデータは長さのデータではなく、スピードに関して出ているデータではないのか。質問の意図は、長さが出るかということだと思う。

【事務局】 例えば10ページの図にあるように、渋滞の定義が10キロ以下という定義はあるのだが、時速10キロメートル以下になる時の長さはどの位になるかと分かる。実際に調査員が計る時も、ある地点にいた時の渋滞の後ろがどれ位だったかを見るので、このデータも同様の内容である。

【人見委員】 アンケート調査票には、「鎌倉市では、鎌倉地域に流入する来訪車両等への課金により」という文言が必ず入っているが、課金対象になる車両は何かということ、もう一度確認させて頂きたい。鎌倉地域に流入する来訪車両等への課金ということになると、来訪車両とは何か。例えば、鎌倉市民で大船に住んでいる者が鎌倉地域に流入した時に課金されるのかどうか。

【事務局】 中間とりまとめの31ページを見て頂きたい。先程の話との関連だが、まず専門部会や検討委員会では課金方向性を定めて、特別委員会には、これが実際にできるのかを問い掛けている。その中でのパターンとしては「市外から流入する車両を1とした場合に市民の負担は0から0.1程度とする」として、具体的に、例えば市外を1,000円とした場合には鎌倉市民の負担は0円か100円程度にする。この具体的な額や対象はまだ検討している状

況の中で、先程のアンケートで示したような「来訪車両への課金」という言い回しを使っている。その辺りも含めてどのような言い回しが適切で誤解を与えないのかを内部で議論している。

【人見委員】0 も含めれば市民も含まれるということか。言葉の定義については付け加えて頂けると良い。鎌倉地域に流入する来訪車両等への課金というと、来訪車両は鎌倉市民ではなくて、例えば藤沢市民の車や横浜市民の車と定義付けると「鎌倉市民は来訪車両ではないから鎌倉市民がどこに住んでいようと、鎌倉地域に流入しても課金対象にはならない」という文章になってしまう。そうではなく、「議論が進んでどういうことになるか分からないが、場合によっては大船に住んでいる人も鎌倉地域に入った場合は課金対象になる場合もある」ということならば、この文章を「鎌倉地域に流入する自動車への課金」というように、来訪車両をやめて自動車にしたらどうかというのが案である。

【福澤委員】それに関連して、簡単に「鎌倉地域」と言ってしまうているが、いわゆる行政上の鎌倉地域と我々の考えている古都鎌倉地域みたいなものは違うという認識である。ここで言っている範囲は行政上の区域よりも狭いので、アンケートでいう「鎌倉地域」の中に入らない市民にとっては、少し違和感を覚えるのではないか。

【事務局】指摘の通り、A3 資料の 5 ページを見て欲しいのだが、古都鎌倉という具体的なエリア分けがこの鎌倉市には存在しないため、何かをもって古都鎌倉と定義付けないといけないと考えていた。その中の一つとして、歴史的風土保存区域を含む地域というものがある。その中にあり、そのエリアに近い部分を行政界や道路で結んだエリアがこれである。一つの目安として、我々はこれを鎌倉地域としたらどうかと考えている。具体的にこのアンケートの中に同封して「ここが鎌倉地域である」という説明を加え、アンケートのお願い文の中でも分かるようにしたいと思っており、アンケートを受け取った方がここに書いてある鎌倉地域がどこかが分かる形で行っていきたいと考えている。

【福澤委員】それに「本計画における」とか「本交通計画における」という文言を入れ込んで良い。

【久保田部会長】この資料1の「鎌倉地域」は新たに定義した鎌倉地域か。

【事務局】その通りである。行政区域の言う鎌倉地域とは異なっているので、少し混乱してしまうかもしれない。

【福澤委員】鎌倉地域の前に「本計画における鎌倉地域」と書いた方が良いのではないか。

【久保田部会長】今の段階で行政的な鎌倉地域と違う鎌倉地域を示す必要はあるか。

【福澤委員】市民にとっては、自分は鎌倉地域に住んでいると思っているのに、その線より外なのかと思う人が必ず出てくる。

【久保田部会長】その人は相当混乱する、あるいは疑うと思う。ゲートの位置はまだ決まってもいないのに、あえて今この計画で独自の地域を示す必要はあるのか。

【福澤委員】本件の対象地域でも何でも良いのだが、「鎌倉地域」というのを使わないように、少し考えた方が良いでしょう。

【松澤委員】「地域」という言葉をなくせば良いのではないかと。

【久保田部会長】鎌倉にするということか。

【福澤委員】もっと広い範囲となる。

【事務局】このアンケートで、（仮称）鎌倉ロードプライシングで想定しているエリア内の動きがどうなっているかを明らかにする。その時にどうしても中と外の区分けが必要である。

【福澤委員】簡単に言うと（仮称）鎌倉ロードプライシング対象地域ということか。

【久保田部会長】そうかもしれない。今おっしゃったのは「車がどこからどこに動いたかということ」を今回相当細かくしておきたい」ということである。そのためにはここにある指定番号1から12というものが大事なのか。

【事務局】その通りである。

【久保田部会長】ただ、その全体を囲むエリアを鎌倉地域と提示する必要があるかどうか。指定番号だけでも今おっしゃった車の動きは十分取れると思う。

【松澤委員】鎌倉地域というのは昔から鎌倉に住んでいたら、その周辺のドーナツ型に開けていた地域は鎌倉地域とはいわないと認識していると思う。（仮称）鎌倉ロードプライシングの範囲をどこに立てるかということだと思うが、ローマの城壁ではないが、その位置から外に出る時はお金が掛かる。その位置は部会長がおっしゃるように、課金箇所が決まってないうちに「この地域」とされてしまうのは困るかもしれない。鎌倉地域というのは開発されない昔の地域である。

【福澤委員】私が住んでいるところはここには入っていないが鎌倉地域である。

【小泉委員】定義の議論を始めると難しくなるが、アンケートの一番上に「鎌倉地域は別紙に示した地域」とすれば良い。それが合っているとか合っていないとか歴史的にどうかという議論はしないで、「あくまでこのアンケートではここで示した地域を『鎌倉地域』と呼ぶ」と

いうことで、あまり細かく言うと「ここに入っている山ノ内は昔から鎌倉に入るか入らないかで明治時代から揉めた」などの色々な経過もある。

【福澤委員】鎌倉地域とはそのように面倒な名前である。

【事務局】鎌倉をとって単なる「地域」と呼ぶか、「古都鎌倉」と呼ぶ方法もある。

【久保田部会長】この議論はここまでにしておいて、先程の「来訪車両の」というところについても大事だと思うので、文言の検討をお願いします。

【事務局】承知した。

【奴田委員】まず、鎌倉市民に「（仮称）鎌倉ロードプライシングを知っているか」というアンケートを入れた方が良い。知らない人もたくさんいる。そして（仮称）鎌倉ロードプライシングを知っている人に対しては「賛成か反対か」という項目を入れて欲しい。（仮称）鎌倉ロードプライシングを知っている人でも「そんなことをしたら困る」という人もいる。これは（仮称）鎌倉ロードプライシングをやるという前提の問いになっているので、その前に（仮称）鎌倉ロードプライシングを知っているかどうか。そして知っている人に対しては賛成か反対かという項目を入れて欲しい。

【松澤委員】（仮称）鎌倉ロードプライシングはここにいらっしゃる方はみんな知っていると思うが、一般市民からすると（仮称）鎌倉ロードプライシング計画があるといっても通じないと思う。やはりそれは「（仮称）鎌倉ロードプライシングはこういうものである」という説明をつけて、それからアンケートをやれば良いと思う。外国で実施されているので、その時の実態調査ではどのようにそれを処理しているかも調べた方が良くと思う。

【久保田部会長】今の意見について、（仮称）鎌倉ロードプライシングをご存じでない方が多くいる。この段階で、ある種の住民投票のような設問を入れてしまうと、イギリスのEU離脱問題のように「良く分からないうちに離脱してしまった」という感じで後悔する可能性もあると思う。賛成、反対についてはもう少し皆さんが知識を持った段階でやった方が良くのではないかと感じる。

【奴田委員】それはそれで良く思うが、市民が「ロードプライシングを知っているかどうか」位の設問は必要ではないか。

【久保田部会長】それは是非加えて頂きたい。

【事務局】それは「ロードプライシングそのものを知っているか」ということでなくて「（仮称）鎌倉ロードプライシングの計画を検討していることを知っているか」ということか。

【奴田委員】 いや、単なる「ロードプライシング」の言葉の意味である。

【福澤委員】 それを丁寧に説明して、「知っていたか」という設問をするのはどうか。

【奴田委員】 「金をとるのか」「金払わないと鎌倉に入れないのか」「鎌倉市民が外から入ってくる時にまた金とられるのか」ということで言われるのだが、メリットがあるといってもそのメリットが何か分かりにくい。私が前に言ったように買い物をしたら3パーセント割引といっても、商業者にとってはその3パーセントの請求がくるとその影響が大きくなる可能性もある。具体的にこんなメリットがあると謳った上で「(仮称)鎌倉ロードプライシングとは何か」を言わないと本当にわからない。机上の空論でお金を払えば車が減るという実現性の難しいまま話を進めてしまっている。特別委員会の学識経験者は鎌倉に住んでいない人が検討するから、少し疑問があるのだが、その辺りも含めて、ロードプライシングそのものを理解しているかどうか聞いて頂きたい。

【久保田部会長】 設問の仕方が結構デリケートになると思うが、少し表現を工夫してもらいたい。

【事務局】 もう一度確認するが、「(仮称)鎌倉ロードプライシングの計画を進めていることを知っているか」ということで良いか。「ロードプライシングの言葉そのものを知っているか」という問いではないということによろしいか。

【奴田委員】 ロードプライシングの言葉そのもの知らない人も多くいる。

【福澤委員】 「こういう計画を進めている」という記載は、どのような計画かを知ることができるので言って良い。「ところで、ロードプライシングという言葉はあなたは知っていたか」という、それそのものを聞いて欲しいということである。

【奴田委員】 その通りである。言葉及び内容についてである。

【久保田部会長】 ここは少し事務局で考えて頂きたい。

【松澤委員】 ロードプライシングはカタカナ文字であるが、交通課金制度等それを日本語に訳した言葉はないのか。

【久保田部会長】 そういう固いものはある。

【福澤委員】 前から言っているものでは「関銭」というのがある。

【久保田部会長】 それもかなり重大な課題で、これから進めていく時にもっと良い名前はないかというのはある。それは次の課題としたい。

【廣瀬委員】（仮称）鎌倉ロードプライシングは特別委員会を設けたりして、今日は規制を設けて具体的な方向に持って行きたいとしているが、具体的に正式なところに交渉にも行っていない、デリケートな問題である。本当に市長はこのアンケートを一般市民の方に聞いてしまっても大丈夫なのか心配している。別に何かを決める機関ではないが、色々な方に意見を聞くことで具体的に進めようとしているので、こういうところで検討することは良いと思う。「この段階で一般市民に聞いてしまうのか」ということで少し心配している。

【嶋村委員】今の意見と同じである。観光分野から見ていくと、今年からスタートした観光基本計画がある。観光基本計画の中でも交通問題は重要な話になっているので「交通需要マネジメント」という言葉で表している。（仮称）鎌倉ロードプライシングという言葉は一切使っていないはずである。（仮称）鎌倉ロードプライシング自体に反対の人は潜在的にいますので、質問の仕方の部分で「（仮称）鎌倉ロードプライシングをやる」という前提であるのは如何か、特別委員会が専門部会に対して導入を前提でのアンケート実施を言うなら検討するが、やはりその名前を出すというのが今の時点で良いのかどうか。

【松澤委員】市長の意見である。

【嶋村委員】「市長がこういう施策を考えている」という一文を入れてアンケートする。検討委員会がアンケートするのではないと明言した方が良い。

【事務局】アンケートの主体は鎌倉市である。そのアイデアをより高めるために部会の意見をもらうというかたちになる。事務局としては、あくまでも「検討」というニュアンスの設問としたい。

【福澤委員】もう一回市長に「こういう言葉を入れてこういうアンケートをやっても良いか」ということを確認した方が良い。

【人見委員】アンケートに「ロードプライシングを知っているか、知らないか」ということを聞くのは賛成である。ただし、聞くのに併せて、「鎌倉市の考えている（仮称）鎌倉ロードプライシングはこういうものである」ということがよく分かるように説明を加えなければならぬと思う。その時に良い点も悪い点も両方を素直に出したら良いのではないかと思う。

【久保田部会長】少なくとも先程の、中間とりまとめ 31 ページにあったような、「この検討委員会が今のところ考えている方向性はこういうことだ」ということを作って頂いて、ロードプライシングそのものについて質問するならその位しないと伝わらないという意見である。

【松澤委員】アンケートだが、住んでいる人は別にして来訪者は時間に限りがあって鎌倉に来ている訳である。アンケートを差し出されて「これを見てくれ、これを書いてくれ」と言われるといい加減なことを書いてしまう人もいると思う。分量も少なくして、濃い内容でやら

ないといけない。

【久保田部会長】方法について如何か。

【事務局】方法はアンケートを手渡して郵送で返信お願いするかたちは採るのだが、大体 A3 の両面になる。

【松澤委員】住民も全部郵送か。

【久保田部会長】来訪者と同じ方法か。

【事務局】郵送という点は同じである。

【宮田委員】二つある。(仮称)鎌倉ロードプライシングという名前が書いてなかったら読めない文になっていると思う。よく読むと鎌倉地域と書いてあったり、質問を順番に読んでいくと全ての地域とか、居住者は一割程度と書いてあったり、全部書いてあるのだが読みにくいので、それを一覧にして、「こういうことを検討しているが途中である」ということを明確にして、普通の市民の知識だと戸惑うだろうな、読まれないだろうなというところの表現を工夫してはどうか。

二つ目で、私は来訪者だが、少し量が多いと思うと同時に、デジタルでできないのかが気になる。全体の調査は全部アナログなので、これに予算がどのぐらい掛かっているのかが市民としては気になっている。アナログをやめたからといって一概にコスト削減ができるとは言えないが、今後も含めて、もっとリアルタイムに最新の情報が欲しいとなったら「スマホで答えてくれ」と紙一枚渡してアンケートを行うのはどうか。紙のアンケートだと郵送しないのではないか。回収率も今後のために考慮して頂いて、もっと良い方法が使えればと思う。

【人見委員】関連の質問だが、平成 8 年にやられた時の回収率はどの程度だったのか。その反省を踏まえて今回はどういうところを直して回収率を高めたいということがあれば教えて欲しい。それからもう一点、駐車場でアンケートを行うようだが、「20 カ所」というのは 20 人という意味か。それともどれ位の規模で考えているのか。

【事務局】大変申し訳ないのだが、前回どれぐらいの回収率があったかというのは調べないと分からないので後日連絡する。平成 8 年の時は信号で止まっている人に手渡して調査を行った。その当時はできたらしいのだが、近年はそういう調査ができなくなったので、止まっている場所ということで駐車場を対象にした。対象にした駐車場は 20 カ所で、駐車場の台数で例えば 3~4 回転するとなると、大体計算すると 2~3,000 枚位は配れると想定している。

【長塚委員】2 点ある。50 社の事業者の 3,000 カ所のピックアップの方法はどうするのか。色々アンケート等細かいところはこれから詰めるのもあるのだろうが、仮に 9 月に実施するといつ頃に集計結果が出るのか。

【事務局】市民の方は市民税課のデータがあり、そこから無作為抽出で、先程の鎌倉地域内と地域外で分けて行う。事業所については、市民課でデータを持っているのだが、「こちらはアンケートに転用できない」ということを言われたので、ホームページで鎌倉地域の電話番号から事業所を新たに取り、アンケートのラベルを作ってもら。回収の期間だが、通常だと大体配布してから二週間程度の時間を設けて回収し、回収してからデータ入力等があるので、結果が出るまで2、3ヶ月は掛かる。

【稲垣委員】ロードプライシングという言葉は他の地域でも結構出ているが、ここで検討されている程のロードプライシングは、他の地域では全く実行されていないという現実があり、鎌倉市の（仮称）鎌倉ロードプライシングに関する議論に参加できることを非常に光栄に思っている。例えば、阪神高速で環境ロードプライシングという言葉が出ている。都心を通るような道路は渋滞しており、「湾岸線の方の料金を下げて、湾岸に流して都心への流入を防ごう」という考え方をしている。それをロードプライシングと言っているのだが、大阪の大学の先生は、「それはロードプライシングではない。片方を安くして流しているだけなので道路に対して課金するような制度ではない」と言っている。我が国における「道路に対する課金」や「ロードプライシング」という言葉は、かなり諸外国と食い違いが出てきている。議論で思ったのは、市民の認知度がいかほどのものかということと、ここでの議論で一体何を整理したいのかということに齟齬があっては絶対ならないということである。それぞれの委員の皆さんがおっしゃっている通り、丁寧に、「この鎌倉で導入しようとしている（仮称）鎌倉ロードプライシングは本当のロードプライシングだ」ということをきちんとお伝えするものがなくてはならないと思っている。これは前の議題にも掛かっているかもしれないが、この後どういう戦略を持って（仮称）鎌倉ロードプライシングを実現していくのかという道標が少し曖昧なのかなと思う。今年度（仮称）鎌倉ロードプライシングの議論を決着させる方向に向かっていく時に、何をどこまで明らかにしなければいけないのか。今回それぞれのアンケートの設問が一体何を明らかにするために設定されているのか分かりにくい。やはり、今年度は市民の認知浸透という面と、技術的な法整備の話もあったが、そういう計画的な話を同時に考えていかなければいけない時期にきているのではないかと考えている。市民にはどこまでアンケートを工夫して情報提供するのか、そして技術的な話で一体どこまでの課金の姿を見せていくべきかなど、「市民の意見から皆さんが何を抽出すべきなのか」ということを明らかにしないと、「実施した。集計した。」で終わってしまうのではないかと。集計結果を基にどう議論をするのが正直少し見えない。根本的な話で申し訳ないが、これが一つ目である。

二つ目は今年度ここで検討するものとして、（仮称）鎌倉ロードプライシング以外に歩行者尊重道路について考えるという点があったが、そちらについては調査やアンケートは別途考えているのか。もし予算の関係上それが難しいのであれば、（仮称）鎌倉ロードプライシ

ングのことをかなり考えて今回の調査計画を練られているが、例えば、歩行者尊重道路の流入交通量がどの位なのか、月あたりどの位なのかも併せてできないか。これは受託業者がかなり知恵を絞って、限られた中でどの位やるのかという話はあるが、交通実態調査に関しては歩行者尊重道路に対しても貢献できるようなデータが集まってくると一石二鳥になる。

三つ目は些末な話だが、アンケート調査対象の話で、20カ所の駐車場をどのように選定しているのかが疑問である。今拝見したところでは駐車台数の多いところから優先的に選んでいる感じがしたので、もしそうであれば少し懸念する。やはり駐車場の配置と観光スポット、行くべきところとの空間的な配置があると思うので、たとえ小規模であっても非常に重要な駐車場があるかもしれない。空間的な条件で選定をした方が良いのではないかと思う。そしてアンケートに、ETCの設置状況というのがあり、「これで市民のETC設置状況が分かる」とおっしゃっていたのだが、本当にそれで断定してしまっているのか気に掛かる。サンプリングの関係もあると思うが、本当に付いているか付いていないか、地域の人にETCがどれだけ普及しているのかが言えるのかどうかは疑問である。「ETCが付いている人はこう回答している」「付いていない人はこう回答している」というクロス集計なら分かるのだが、普及状況を決めて良いのかは少し疑問があるので、参考程度にしておいた方が良い気がする。そして、右上にCと書かれている来訪者アンケートの問9についてである。パークアンドライドや鎌倉フリー環境手形について、最初に担当課長から説明を聞いた時に素晴らしい政策だと思ったのだが、知っている、知らないという設問だけでは寂しいので、もう少し踏み込んで、「意欲的に参加したいと思っているかどうか」や「何かしらこのような政策に参加するのかどうか、参加する気がないのであればどういったことが改正されれば心が動かされるのか」ということも聞ければ良い。設問を増やすことになるかもしれないが、それを考えても良いと思う。最後に、恐らく物流の話も問題になってくると思う。それぞれ店舗を構えている方々は納品を受け取る時の物流一台一台に課金されるということになると、かなり影響する。共同配送の話も出てくると思うので、その辺りは市の施策としてどのような戦略で議論していくのか考えていく必要がある。

【久保田部会長】 大きな三つ目に関してはかなり具体的なことなので、そのまま意見として頂きたいのと、一点目は根本的過ぎて私には少し分からないが、このアンケートの狙いや、(仮称)鎌倉ロードプライシング戦略とどういう関係があるかについては後程話を頂きたい。

二番目は確かに、今日の資料の1ページ目、スケジュールで(仮称)鎌倉ロードプライシングと並んで歩行者尊重道路が今年度のテーマの二本柱になっている割には「何を材料に議論するのか」がわからない。確かに今回のアンケートにそういう話題を盛り込めるのであれば入れた方が良いかもしれない。

【福澤委員】 歩行者尊重道路に影響するのは、市民向けのアンケートと鉄道のアンケートがあると思う。その他の車利用者前提のアンケートにはあまり大きく関係しないのではないかと。

【稲垣委員】 実態調査が重要になると思う。

【久保田部会長】 他に意見があれば伺いたい。

【宮田委員】 データの話だが、実態調査も含めて、最初にプローブデータの話もしたが、組み合わせの予定はあるのか、それともこれはあくまで限定的な調査なのか。先程部会長がおっしゃったように、駐車場も交差点も実態調査の時にやるのだろうが、これはある一日のサンプルでしかない。もっと良いものがあると思う。それから先程の Web アンケートの話だが、間に合わないとは思いますが、必要があれば作成できるので相談頂きたい。

【久保田部会長】 それらも検討課題にして欲しい。1点、実態調査の前に、検討委員会は開催する予定なのか。

【事務局】 まだ調整中であるが、検討委員会の開催は調査の後になる予定である。

【久保田部会長】 それでは、今日の指摘を踏まえて修正する。その他について説明をお願いする。

【事務局】 今後の開催予定についてだが、次回開催は10月頃を予定している。開催に関しての詳細は確定次第連絡するので宜しく願います。また、本日の第24回専門部会の議事録については後日メール等でお送りするので、修正等あれば事務局に連絡して頂き、確認した上で確定したい。また、本日議論して頂いたアンケートに関する意見については、一週間後の8月4日木曜日の17時までに事務局の方に頂ければと思う。

【福澤委員】 8月末の検討委員会はどうなるのか。

【事務局】 8月末の開催は行わず、9月以降に開催予定とさせて頂きたい。

【久保田部会長】 了解した。以上で第24回専門部会を終了する。

以上